

運用報告書（全体版）

みずほ好配当 日本株オーブン

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	<p>主として日本の株式に投資し、中長期的に着実な信託財産の成長を目指すファンドです。</p> <p>①配当利回りに着目します。 ②相対的に割安と評価される銘柄に投資します。 ③年4回決算を行い、収益分配方針に基づき収益の分配を行います。</p>	
主要投資対象	みずほ好配当日本株オーブン	損保ジャパン好配当日本株マザーファンド
主な組入制限	みずほ好配当日本株オーブン	株式への実質投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	損保ジャパン好配当日本株マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、毎年4月、10月の決算時は、原則として配当収入等を中心として安定的な分配を行うことを基本とし、毎年1月、7月の決算時は、原則として売買益（評価損益を含みます。）等を中心として分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>	

第80期（決算日 2025年7月8日）

第81期（決算日 2025年10月8日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「みずほ好配当日本株オーブン」は、このたび第81期の決算を行いましたので、第80期から第81期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

SOMPOアセットマネジメント株式会社

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル

 <https://www.sompo-am.co.jp/>

お問い合わせ先

 リテール営業部 0120-69-5432
(受付時間 営業日の午前9時～午後5時)

○最近10期の運用実績

決算期	基準価額				TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税分	込配金	みなし分配金	期騰落率	(参考指標)	期騰落率		
72期(2023年7月10日)	円 11,497	円 300		% 11.6		% 2,243.33	% 13.5	% 98.6	% —
73期(2023年10月10日)	12,564	80		10.0	2,312.19	3.1	95.3	—	25,241
74期(2024年1月9日)	12,748	300		3.9	2,413.09	4.4	98.2	—	25,892
75期(2024年4月8日)	14,023	80		10.6	2,728.32	13.1	95.3	—	29,054
76期(2024年7月8日)	13,956	300		1.7	2,867.61	5.1	98.7	—	28,913
77期(2024年10月8日)	13,796	80		△ 0.6	2,699.15	△ 5.9	96.9	—	28,446
78期(2025年1月8日)	13,689	300		1.4	2,770.00	2.6	98.8	—	27,991
79期(2025年4月8日)	12,745	80		△ 6.3	2,432.02	△ 12.2	96.3	—	26,203
80期(2025年7月8日)	14,075	300		12.8	2,816.54	15.8	98.0	—	28,963
81期(2025年10月8日)	16,172	80		15.5	3,235.66	14.9	97.4	—	33,065

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり(以下同じ)。

(注3) 株式組入比率および株式先物比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額		TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率
		(参考指標)	騰落率	(参考指標)	騰落率		
第80期	(期首) 2025年4月8日	円 12,745	% —	% 2,432.02	% —	% 96.3	% —
	4月末	13,640	7.0	2,667.29	9.7	97.2	—
	5月末	14,088	10.5	2,801.57	15.2	96.8	—
	6月末	14,266	11.9	2,852.84	17.3	96.1	—
	(期末) 2025年7月8日	14,375	12.8	2,816.54	15.8	98.0	—
第81期	(期首) 2025年7月8日	14,075	—	2,816.54	—	98.0	—
	7月末	14,777	5.0	2,943.07	4.5	98.8	—
	8月末	15,650	11.2	3,075.18	9.2	98.2	—
	9月末	16,067	14.2	3,137.60	11.4	97.4	—
	(期末) 2025年10月8日	16,252	15.5	3,235.66	14.9	97.4	—

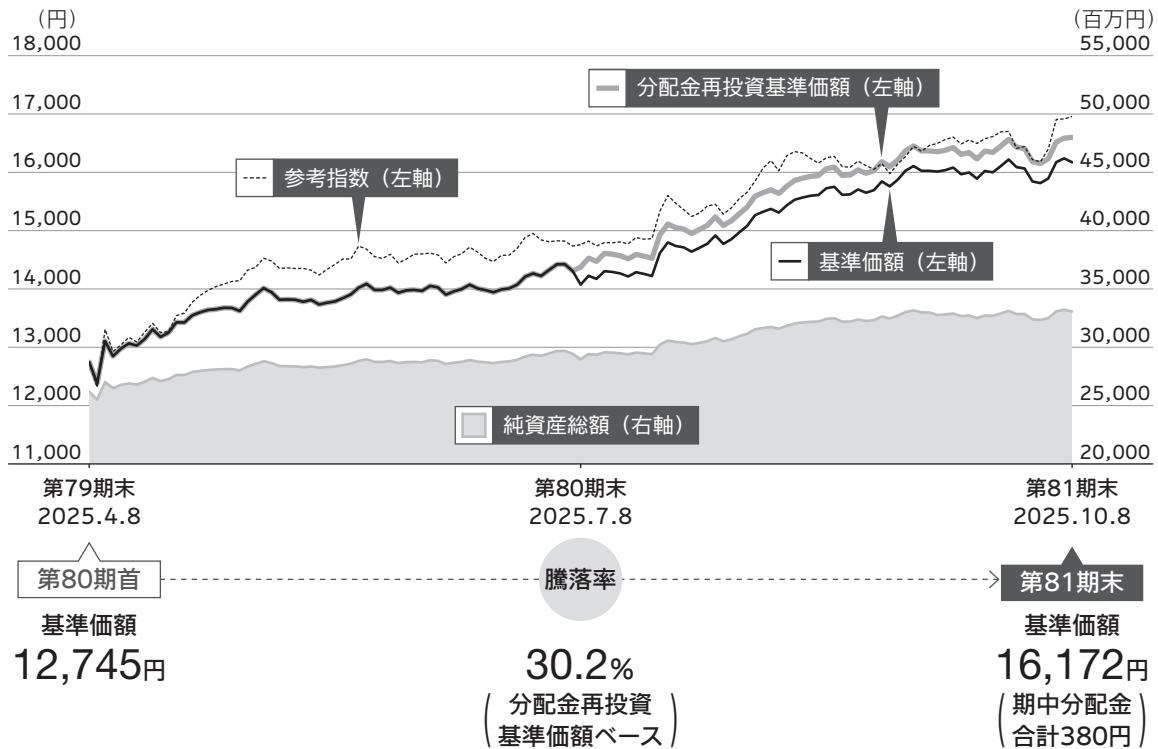
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 株式組入比率および株式先物比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

運用経過

● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額および参考指標（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2025年4月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

● 基準価額の主な変動要因

みずほ好配当日本株オーブン

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの分配金再投資基準価額も上昇しました。

損保ジャパン好配当日本株マザーファンド

期中の騰落率は+31.2%となりました。

個別銘柄では、太陽誘電、NIPPON EXPRESSホールディングス、三井住友トラストグループ、インフロニア・ホールディングス、ナブテスコなどの保有がプラス要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

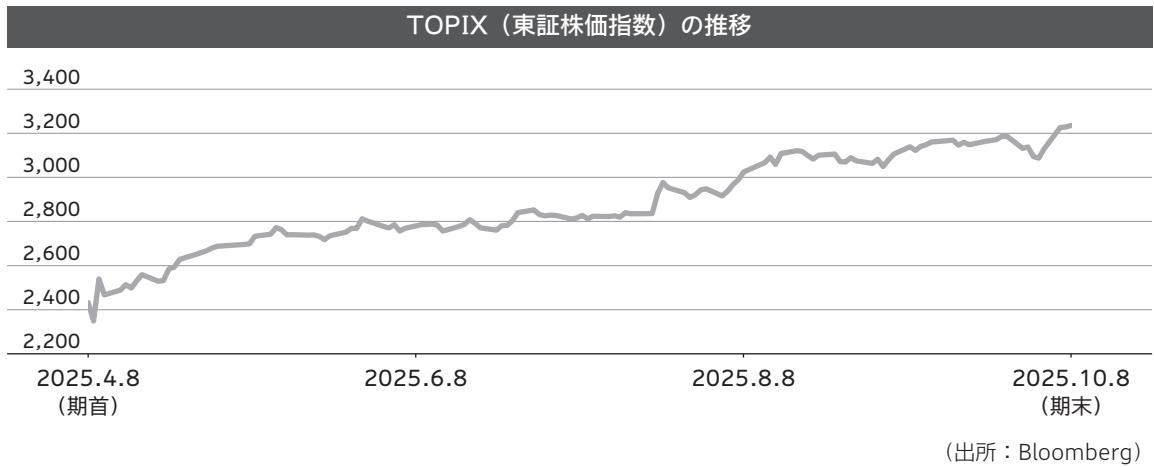
● 投資環境

TOPIXは33.0%の上昇となりました。

期初には、トランプ大統領が相互関税の上乗せ部分を一時停止する方針を示したことで世界経済の景気減速懸念が和らぎ、国内株式市場は大きく上昇しました。

期中には、イスラエルによるイランへの軍事攻撃を発端として中東における地政学リスクの高まりが意識されたことに加え、参議院選挙で与党が過半数を割り込んだことで国内政治の不透明感が高まる場面がありました。しかし、日米関税交渉が合意に至ったことで米国の関税政策に対する不透明感が後退し、株価は底堅く推移しました。

期末にかけて、米雇用統計の軟調な結果を受けて米国での利下げ観測が強まり、国内株式市場は上昇しました。また、自民党総裁選で高市氏が勝利したことで拡張的な財政政策が期待されて、株価は騰勢を強めました。



(出所：Bloomberg)

● 当該投資信託のポートフォリオ

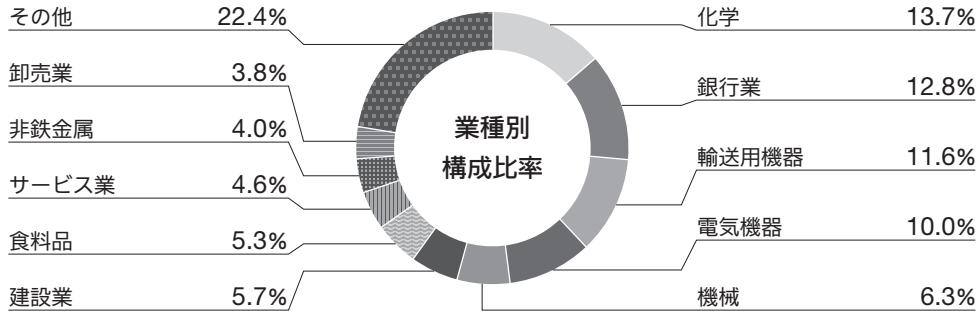
期を通して損保ジャパン好配当日本株マザーファンドの組入比率を高位に維持しました。

損保ジャパン好配当日本株マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.8%です。

期末時点での業種別構成比率はグラフのとおりです。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、トヨタ自動車、住友金属鉱山、信越化学工業などです。主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、王子ホールディングス、エン、NIPPON EXPRESSホールディングスなどです。



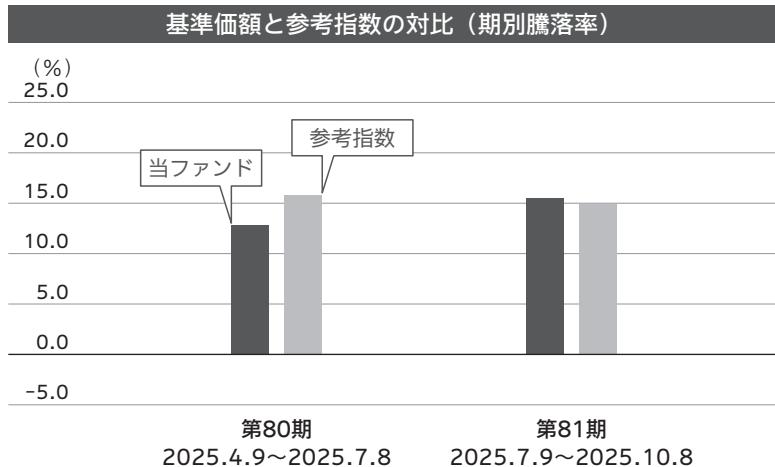
注1. 比率は、第81期末における国内株式の評価総額に対する各業種の評価額の割合。

注2. 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

なお、当作成期における参考指数との対比では、参考指数（TOPIX）の騰落率（+33.0%）を2.8%下回りました。



● 分配金

第80期は売買益（評価益も含む）等を中心に分配する期であり、第81期は配当収入等を中心に安定分配する期です。

第80期は基準価額の水準及び分配対象収益の水準等を勘案し、第81期は基準価額の水準や、今後についても安定した分配を目指すこと等を勘案して、次表の通りと致しました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第80期 2025.4.9～2025.7.8	第81期 2025.7.9～2025.10.8
当期分配金	300	80
(対基準価額比率)	2.087%	0.492%
当期の収益	179	80
当期の収益以外	120	—
翌期繰越分配対象額	5,978	8,057

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

決算期におけるファンドの運用成果[※]をもとに、分配を行うことを目指すファンドです。

※ 運用成果には、インカム収入とキャピタルゲイン・ロスの両方を考慮します。

インカム収入とは株式の配当収入等、キャピタルゲイン・ロスとは値上がり益・値下がり損をいいます。

- ・ ファンドに蓄積された過去の運用成果（分配原資）を加味する場合があります。

● 今後の運用方針

みずほ好配当日本株オーブン

今後も、マザーファンド受益証券の組入水準を高位に維持することで、中長期的な信託財産の成長を目指します。

損保ジャパン好配当日本株マザーファンド

当ファンドは、主に予想配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、当社独自の分析に基づく割安度の高い銘柄を中心にポートフォリオを構築しています。今後も従来からの運用方針を堅持し、中長期的に着実な信託財産の成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。

● 1万口当たりの費用明細

項目	第80期～第81期 2025.4.9～2025.10.8		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	89円	0.607%	(a) 信託報酬 = 各期中の平均基準価額 × 信託報酬率（年率）× 各期の日数 年間の日数 期中の平均基準価額は14,748円です。
(投信会社)	(41)	(0.276)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(41)	(0.276)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.029	(b) 売買委託手数料 = 各期中の売買委託手数料 各期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(4)	(0.029)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 各期中のその他費用 各期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	93	0.637	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

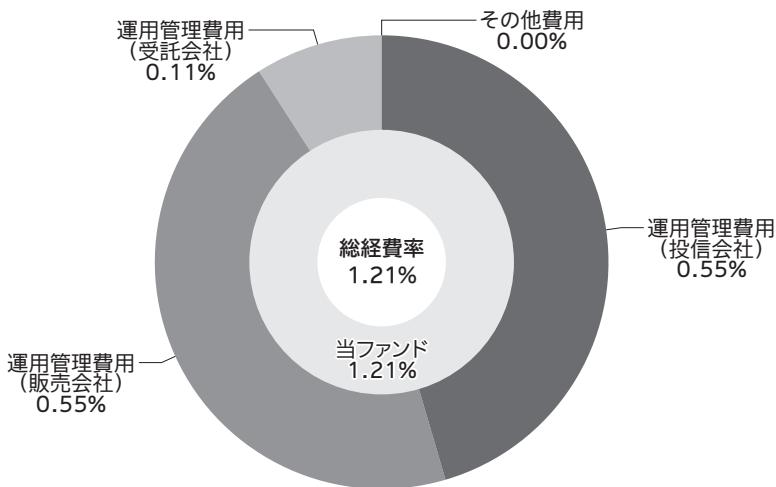
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.21%です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年4月9日～2025年10月8日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第80期～第81期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
損保ジャパン好配当日本株マザーファンド	千口 55,731	千円 277,480	千口 275,983	千円 1,467,480

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

○株式売買比率

(2025年4月9日～2025年10月8日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第80期～第81期
	損保ジャパン好配当日本株マザーファンド
(a) 当作成期中の株式売買金額	22,293,526千円
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	54,963,441千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.40

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2025年4月9日～2025年10月8日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年10月8日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第79期末		第81期末	
	口 数	千口	口 数	評 価 額
損保ジャパン好配当日本株マザーファンド	5,761,310	千口 5,541,058	千円 32,910,008	千円

(注1) 当ファンドは6ヶ月未満決算ファンドであるため、本運用報告書は第80期・第81期を作成期としております。

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) 当ファンドは、第81期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2025年10月8日現在)

項目	第81期末	
	評価額	比率
千円		%
損保ジャパン好配当日本株マザーファンド	32,910,008	98.7
コール・ローン等、その他	435,451	1.3
投資信託財産総額	33,345,459	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項目	第80期末	第81期末
	2025年7月8日現在	2025年10月8日現在
(A) 資産	円	円
コール・ローン等	29,681,787,235	33,345,459,302
損保ジャパン好配当日本株マザーファンド(評価額)	856,116,757	435,446,515
未収利息	28,825,662,269	32,910,008,612
8,209		4,175
(B) 負債	718,696,052	279,545,805
未払収益分配金	617,336,480	163,573,360
未払解約金	15,747,681	19,208,686
未払信託報酬	85,405,641	96,557,509
その他未払費用	206,250	206,250
(C) 純資産総額(A-B)	28,963,091,183	33,065,913,497
元本	20,577,882,683	20,446,670,085
次期繰越損益金	8,385,208,500	12,619,243,412
(D) 受益権総口数	20,577,882,683口	20,446,670,085口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,075円	16,172円

(注1) 当作成期間（第80期～第81期）における期首元本額20,559,032,724円、期中追加設定元本額773,286,528円、期中一部解約元本額885,649,167円

(注2) 第80期末における1口当たりの純資産総額 1.4075円

第81期末における1口当たりの純資産総額 1.6172円

○損益の状況

項目	第80期		第81期	
	2025年4月9日～ 2025年7月8日	円	2025年7月9日～ 2025年10月8日	円
(A) 配当等収益 受取利息	209,028 209,028		218,562 218,562	
(B) 有価証券売買損益 売買益 売買損	3,409,181,292 3,437,894,708 △ 28,713,416		4,508,273,341 4,584,126,323 △ 75,852,982	
(C) 信託報酬等	△ 85,611,891		△ 96,763,759	
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,323,778,429		4,411,728,144	
(E) 前期繰越損益金	5,692,398,290		8,168,602,774	
(F) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	△ 13,631,739 (3,902,362,841) (△3,915,994,580)		202,485,854 (4,056,592,022) (△ 3,854,106,168)	
(G) 計(D+E+F)	9,002,544,980		12,782,816,772	
(H) 収益分配金 次期繰越損益金(G+H) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額) 分配準備積立金	△ 617,336,480 8,385,208,500 △ 13,631,739 (3,902,782,255) (△3,916,413,994) 8,398,840,239		△ 163,573,360 12,619,243,412 202,485,854 (4,058,658,806) (△ 3,856,172,952) 12,416,757,558	

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした差額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程(2025年4月9日～2025年10月8日)は以下の通りです。

項目	2025年4月9日～ 2025年7月8日	2025年7月9日～ 2025年10月8日
a. 配当等収益(費用控除後)	110,830,029円	418,899,117円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	909,311,415円	3,992,829,027円
c. 信託約款に規定する収益調整金	3,902,782,255円	4,058,658,806円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	7,996,035,275円	8,168,602,774円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	12,918,958,974円	16,638,989,724円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	6,278円	8,137円
g. 分配金	617,336,480円	163,573,360円
h. 分配金(1万口当たり)	300円	80円

○分配金のお知らせ

	第80期	第81期
1万口当たり分配金（税込み）	300円	80円

<分配金をお支払いする場合>

- ・分配金は、原則として各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しています。

<分配金を再投資する場合>

- ・お手取り分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資しています。

<課税上の取扱いについて>

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配金落ち後の基準価額が個別元本と同額の場合または個別元本を上回っている場合は、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配金落ち後の基準価額が個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、収益分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人の受益者に対する課税
税率は普通分配金について、20.315%（所得税及び復興特別所得税15.315%、並びに地方税5%）です。

※上記は源泉徴収時の税率であり、税率は課税方法等により異なる場合があります。

※法人の受益者に対する課税は、税率が異なります。

※上記内容は、税法が改正された場合等には変更になることがあります。

※課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家または税務署等にご確認ください。

損保ジャパン好配当日本株マザーファンド

運用報告書

第21期（決算日 2025年10月8日）

＜計算期間 2024年10月9日～2025年10月8日＞

損保ジャパン好配当日本株マザーファンドの第21期の運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限
運用方針	信託財産の中長期的に着実な成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。
主要投資対象	わが国の株式
主な組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	TOPPIX(東証株価指数)		株組入比率	株式先物比率	純資産額
		期騰落	中率			
17期(2021年10月8日)	円 27,596	% 28.9		% 1,961.85	% 18.5	% 97.8
18期(2022年10月11日)	30,114	9.1		1,871.24	△ 4.6	97.1
19期(2023年10月10日)	40,269	33.7		2,312.19	23.6	95.8
20期(2024年10月8日)	47,393	17.7		2,699.15	16.7	97.3
21期(2025年10月8日)	59,393	25.3		3,235.66	19.9	97.8

(注1) 基準価額は1万口当たり（以下同じ）。

(注2) 株式先物比率=買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	T O P I X(東証株価指数)		株 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率
		(参考指 数)	騰 落 率		
(期 首) 2024年10月8日	円 47,393	% —	2,699.15	% —	% 97.3
10月末	47,148	△ 0.5	2,695.51	△ 0.1	97.3
11月末	46,982	△ 0.9	2,680.71	△ 0.7	97.6
12月末	48,477	2.3	2,784.92	3.2	99.2
2025年1月末	48,579	2.5	2,788.66	3.3	98.7
2月末	48,360	2.0	2,682.09	△ 0.6	98.7
3月末	49,544	4.5	2,658.73	△ 1.5	97.2
4月末	48,489	2.3	2,667.29	△ 1.2	97.5
5月末	50,139	5.8	2,801.57	3.8	97.2
6月末	50,827	7.2	2,852.84	5.7	96.6
7月末	53,853	13.6	2,943.07	9.0	99.3
8月末	57,104	20.5	3,075.18	13.9	98.7
9月末	58,690	23.8	3,137.60	16.2	98.0
(期 末) 2025年10月8日	59,393	25.3	3,235.66	19.9	97.8

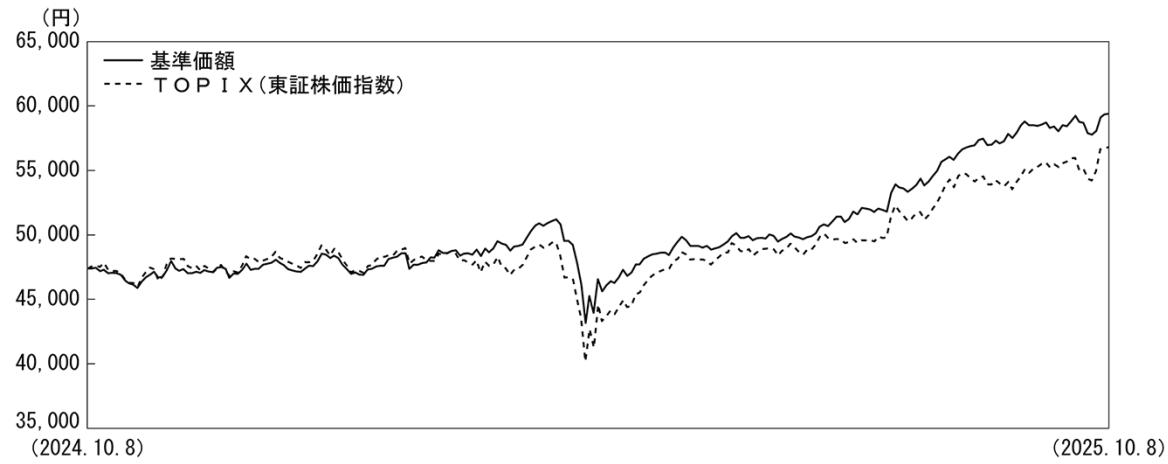
(注1) 謄落率は期首比。

(注2) 株式先物比率=買建比率－売建比率。

○運用経過

(2024年10月9日～2025年10月8日)

■基準価額の推移



期首：47,393円
期末：59,393円
騰落率：25.3%

・参考指数(TOPIX(東証株価指数))の推移は、2024年10月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

■基準価額の主な変動要因

当期間の国内株式市場が上昇する中、当ファンドの基準価額も上昇しました。
個別銘柄では、太陽誘電、NIPPON EXPRESSホールディングス、八十二銀行、インフロニア・ホールディングス、みずほフィナンシャルグループなどの保有がプラス要因となりました。

■投資環境

TOPIXは19.9%の上昇となりました。

期初には、衆議院選挙で与党が過半数を割り込んだことで、積極的な景気刺激策への期待が高まり、株価の支援材料になりました。一方で、米国大統領選挙で勝利したトランプ大統領が打ち出した保護主義的な方針が株価の重しとなり、国内株式市場はレンジ内の推移が続きました。

2025年4月には、トランプ大統領が相互関税を発表したことで世界経済の減速懸念が台頭し、株価は大きく下落しました。しかし、相互関税の上乗せ部分が一時停止されたことで米国の関税政策に対する警戒感が和らぎ、株価は反発しました。

その後、米雇用統計の軟調な結果を受けて米国での利下げ観測が強まることや自民党総裁選で高市氏が勝利したことで拡張的な財政政策が期待されて、株価は騰勢を強めました。

■当該投資信託のポートフォリオ

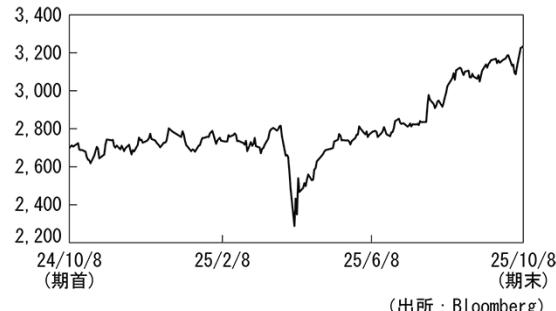
期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.8%です。

期末時点での業種別構成比比率はグラフのとおりです。

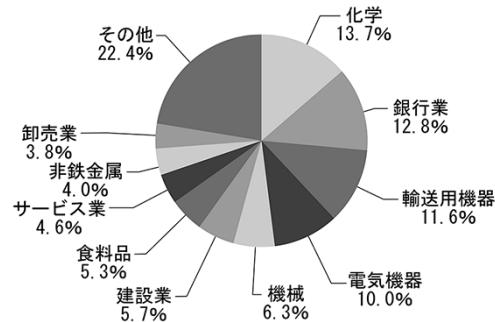
当期も、独自の調査分析に基づく割安度に従い、銘柄入れ替えを行いました。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、トヨタ自動車、アサヒグループホールディングス、住友金属鉱山などです。主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、日本電気硝子、T O Y O T I R E、エクシオグループなどです。

TOPIX（東証株価指数）の推移



業種別構成比率



(注1) 比率は、第21期末における国内株式の評価総額に対する各業種の評価額の割合。

(注2) 端数処理の関係上、構成比合計が100%にならない場合があります。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

なお、当期における参考指数との対比では、参考指数（TOPIX）の騰落率（+19.9%）を5.4%上回りました。

■今後の運用方針

当ファンドは、主に予想配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、当社独自の分析に基づく割安度の高い銘柄を中心にポートフォリオを構築しています。今後も従来からの運用方針を堅持し、中長期的に着実な信託財産の成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年10月9日～2025年10月8日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料 (株式)	円 31 (31)	% 0.060 (0.060)	(a) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合計	31	0.060	
期中の平均基準価額は50,682円です。			

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2024年10月9日～2025年10月8日)

株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株 13,364 (1,258)	千円 22,492,486 (-)	千株 13,534	千円 21,174,825

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ()内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2024年10月9日～2025年10月8日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	43,667,312千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	52,501,757千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.83

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2024年10月9日～2025年10月8日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年10月8日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当期末	
		株数	評価額
鉱業 (1.6%)		千株	千円
I N P E X	—	360.3	988,302
建設業 (5.7%)			
コムシスホールディングス	118.7	122.2	460,694
大林組	426.6	—	—
大和ハウス工業	36	—	—
積水ハウス	—	310	1,021,760
エクシオグループ	621.4	103.1	221,613
日揮ホールディングス	159	161.4	245,005
大気社	—	112.3	323,536
インフロニア・ホールディングス	586.5	699.6	1,214,505
食料品 (5.3%)			
ニッパン	—	51.5	116,029
日清製粉グループ本社	—	219.2	396,642
森永乳業	—	51.5	173,503
伊藤ハム米久ホールディングス	—	22.6	128,368
アサヒグループホールディングス	—	822.5	1,468,573
キリンホールディングス	583.8	434.7	948,080
繊維製品 (-%)			
東洋紡	528.3	—	—
東レ	567.9	—	—
パルプ・紙 (1.7%)			
王子ホールディングス	857.6	225.5	180,016
レンゴー	226.9	654.2	610,041
ザ・パック	67	205.4	253,463
化学 (13.7%)			
東洋紡	—	535	603,480
旭化成	890.4	714.2	856,682
住友精化	47.2	48.1	227,994
日産化学	92	114.5	620,361
東ソー	123.3	—	—
デンカ	249.4	255	592,110
信越化学工業	—	202.7	1,031,743
エア・ウォーター	—	108.5	277,977
日本触媒	125.5	—	—
三菱瓦斯化学	144.5	—	—
三井化学	247.4	398.1	1,478,145
KHネオケム	262.3	265.5	727,470

銘柄	期首(前期末)	当期末	
		株数	評価額
日本ゼオン	575.1	582.8	961,620
日本化薬	333.8	339.6	474,760
三洋化成工業	78.9	80.1	325,606
太陽ホールディングス	65	—	—
D I C	53.3	—	—
a r t i e n c e	—	66.8	210,420
医薬品 (3.1%)			
武田薬品工業	232.4	237.7	1,035,421
アステラス製薬	528.8	546.4	901,013
日本新薬	49.1	—	—
ツムラ	50.4	—	—
ゴム製品 (0.8%)			
TO Y O T I R E	383.2	—	—
ブリヂストン	—	69.8	491,461
ガラス・土石製品 (3.1%)			
A G C	242.2	282.8	1,380,064
日本電気硝子	345.3	—	—
東海カーボン	—	150.4	157,844
ニチハ	133	136.2	373,732
鉄鋼 (0.9%)			
J F E ホールディングス	—	315.4	577,812
非鉄金属 (4.0%)			
日本軽金属ホールディングス	—	91.4	195,230
住友金属鉱山	—	261.5	1,342,279
A R E ホールディングス	649	415.4	933,819
金属製品 (0.4%)			
L I X I L	139.7	141.8	250,773
機械 (6.3%)			
アマダ	92.4	—	—
オーエスジー	202	206.3	459,636
ナブテスコ	229.1	275.4	1,013,472
住友重機械工業	185.2	189.4	676,726
クボタ	—	230.8	449,483
日本精工	653	664.7	507,963
ジェイテクト	395	502.5	739,680
電気機器 (10.0%)			
マブチモーター	295.8	299.9	765,794
オムロン	—	106	458,768

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
E I Z O		千株	千株	千円
ヒロセ電機	244	246.9	535,526	
ヨーセル	29.2	29.7	563,557	
イリソ電子工業	147.6	149.3	181,847	
カシオ計算機	155.4	157.2	473,958	
京セラ	355.7	359.8	440,215	
太陽誘電	—	271	547,555	
ニチコン	132.8	475.6	1,711,208	
輸送用機器 (11.6%)	204.8	310.9	452,981	
トヨタ紡織	276.1	281.5	686,297	
デンソー	—	271.5	611,418	
いすゞ自動車	—	171.2	329,046	
トヨタ自動車	—	730.7	2,198,676	
カヤバ	48.3	—	—	
アイシン	354	210.6	548,823	
本田技研工業	797.6	821.1	1,310,475	
SUBARU	187.3	—	—	
豊田合成	198.8	201.3	740,784	
ティ・エス テック	358	365	674,520	
その他製品 (1.0%)	155.3	158.1	587,341	
リンテック	—	91.5	395,005	
電気・ガス業 (0.6%)	122.3	124.2	270,445	
大阪瓦斯	185.2	369.2	1,242,358	
陸運業 (2.5%)	9,111.8	10,974.2	1,687,831	
セイノーホールディングス	81.2	—	—	
NIPPON EXPRESSホールディングス	4,198.3	2,213.9	476,209	
情報・通信業 (3.5%)	201.5	254	538,607	
NTT	190.6	67	109,411	
KDDI	471.5	479.6	728,992	
ソフトバンク	—	245	403,270	
卸売業 (3.8%)	349.3	354.4	547,548	
アルフレッサ ホールディングス	157	111.6	164,610	
第一興商	169.9	—	—	
日本ライフライン				
岩谷産業				
オートバックスセブン				
小売業 (1.3%)				
DCMホールディングス				
ユナイテッドアローズ				

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
丸井グループ	215.9	—	—	—
イズミ	—	90.6	284,574	
ケーズホールディングス	239	160.9	251,808	
パローホールディングス	—	43.2	120,312	
銀行業 (12.8%)	194.1	205.9	416,123	
しづおかファイナンシャルグループ	—	151.3	131,782	
九州ファイナンシャルグループ	464.4	712.8	1,263,081	
ゆうちょ銀行	152.6	155.1	382,786	
西日本ファイナンシャルホールディングス	137.8	420.6	611,973	
第四北越ファイナンシャルグループ	368.2	374.6	530,620	
ひろぎんホールディングス	273	281.3	659,789	
三井住友トラストグループ	404.9	413.4	1,748,268	
三井住友ファイナンシャルグループ	119.5	95.1	392,287	
八十二銀行	293.1	608.3	900,892	
みずほファイナンシャルグループ	264.3	118.3	575,411	
北洋銀行	557.2	307.4	222,865	
証券・商品先物取引業 (-%)	294.9	—	—	
ジャフコ グループ	東京センチュリー	200.5	111.4	208,262
その他金融業 (1.0%)	オリックス	—	108.9	417,304
不動産業 (0.7%)	野村不動産ホールディングス	92.1	469.9	439,215
サービス業 (4.6%)	ゴールドクリスト	143.6	—	—
日本M&Aセンターホールディングス	エン	543.7	1,167.1	843,113
バーソルホールディングス	ベルシシステム24ホールディングス	1,790	—	—
H. U. グループホールディングス	ソラスト	96.3	—	—
エン	メイテックグループホールディングス	221.9	—	—
ベルシシステム24ホールディングス	844.5	856	1,153,888	
ソラスト	1,082.7	1,099.1	552,847	
メイテックグループホールディングス	合計	80.1	81.4	258,038
銘柄数 <比率>	40,831	41,919	61,373,252	
93	98	<97.8%>		

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2025年10月8日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 61,373,252	% 97.8
コール・ローン等、その他	1,351,644	2.2
投資信託財産総額	62,724,896	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年10月8日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	円 62,724,896,918
コール・ローン等	556,069,026
株式(評価額)	61,373,252,410
未収配当金	795,570,150
未収利息	5,332
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	62,724,896,918
元本	10,560,997,182
次期繰越損益金	52,163,899,736
(D) 受益権総口数	10,560,997,182口
1万口当たり基準価額(C/D)	59,393円

(注1) 信託財産に係る期首元本額10,744,898,128円、期中追加設定元本額1,090,868,577円、期中一部解約元本額1,274,769,523円

(注2) 期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

みずほ好配当日本株オープン 5,541,058,477円

好配当ジャパン・オープン 616,475,902円

みずほ好配当日本株オープン（ノーロード型）

1,143,587,450円

みずほ好配当日本株オープン（年1回決算型）

556,449,412円

好配当日本株ファンド（時間分散／実績連動報酬型）2023-06（適格機関投資家専用）

1,160,911,352円

好配当日本株ファンド（実績連動報酬型）（適格機関投資家専用）

1,542,514,589円

(注3) 期末における1口当たりの純資産総額 5,9393円

○損益の状況 (2024年10月9日～2025年10月8日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	円 2,145,901,731
受取配当金	2,144,297,564
受取利息	1,602,038
その他収益金	2,129
(B) 有価証券売買損益	10,492,578,111
売買益	11,259,917,437
売買損	△ 767,339,326
(C) 当期損益金(A+B)	12,638,479,842
(D) 前期繰越損益金	40,178,288,948
(E) 追加信託差損益金	4,505,591,423
(F) 解約差損益金	△ 5,158,460,477
(G) 計(C+D+E+F)	52,163,899,736
次期繰越損益金(G)	52,163,899,736

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を致しました（2025年4月1日）。